令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【白幡中学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)自分の生活や住んでいる地域社会に対して、学んだことを生かすことができる資質・能力。 (2)物事に対して、好奇心を回復させて、よりよい問いを立てることができる資質・能力。 (3)よりよい解決策を実際に実行できる資質・能力。
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)単元の導入やまとめで、実生活や実社会との結びつきを考える問いや機会を設ける【各学期で1回以上】 (2)生成AIの進化を理解して、自ら問いを立てる機会を多く設定する。【各学期で1回以上】 (3)実行するまでの手立てや意義を設け、実行できる単元構成やまとめを設定する。【年間で1回以上】

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	英語では、全国・県平均よりも正答率は高い。一方で「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる」問題に対する無解答率が全国・県平均よりも高く出ている。 国語では「互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる」の無解答率が県平均よりも高く出ている。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	学習内容の理解度は高いが、それを実生活に具体的に生かしたり、実行するための技能については、二極化している。できている生徒がいる一方で、まったく手立てが浮かばない、諦めてしまうような実態が考えられる。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※) B	2学期に重点的に行う授業・活動が多く予定されているため、現時点ではまだ策を講じる場面は各教科・単元の特性に応じて、限定的に行っている状況。
⇓		
学力向上策の見直し	変更なし	

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）